

「ウェベックスコーリング」 遠隔通話システムを発売

外交員の受発信で作業効率向上

システムインテグレータ

の(株)ビーシーシー(福山市光南町3-6-10、金川仁士社長、電084・921・2475)は、企業内の電話交換機(PBX)に替わるクラウドPBXシステムの販売を始めた。システムではPBXの主要装置が不要となるため導入コストを削減でき、従来のPBXに比べて設定変更も容易となる。

電話機として固定電話だけでなくスマホ、タブレット、PCなども利用できる。利便性が高いという。働き方改革もあってテレワークが広がる中、事務作業が効率化

できると提案を急ぐ。

アメリカのシスコ社のサービスで、会社の代表電話への着信をクラウド経由で固定電話やスマホ、PCなどで受信できる。また、登録したスマホからの発信であれば、相手側に代表電話の番号がナンバーディスプレイ



遠隔通話システムでの通話風景



ウェベックスコーリングのシステム図

レイされることから、リモートワークなどで障壁となっていた顧客からの信頼性の向上にも期待できる。

顧客満足度を高めたい企業が増えており、発信者(顧客)に応じて営業担当者が受信することもできる。社内通話や外線着信からの転送時に内線電話としてスマホ、タブレット、PCが利用できる。在宅時にも会社から内線電話としてスマホに転送できる。通常の電話は1対1の通話となるが、この製品は7者まで通話参加が可能で、音声会議として

も利用ができる。

サービス名は「Webex Calling(ウェベックスコーリング)」。2024年4月現在、固定電話1台につき年間1万5230円、スマホなど端末なら2万5360円。初期設定費用として別途30万円からが必要。パケット通信のため通話料

が電話会社にとって安価になり、初年度は20件の受注をめざす。

同社は「従来のPBXには無い実用性の高い機能を備えており、業務効率化できて導入コストも抑えられる、フルクラウド運用サービスを提案したい」と話した。